

## 言語資料一覧

(資料は発行年順に示す。発行年が同年の場合は書名の五十音順に示す。括弧の中は発行年。短編、中編集の場合は収録作品とそれぞれの発表年を括弧の中に示す。)

- [1]『新潮文庫の100冊』CD-ROM版(新潮社1995)より以下の44冊  
(翻訳作品を除く1945年以降の作品)
- 『ビルマの堅琴』(1947) 竹山道雄  
『人間失格』(1948) 太宰治  
『野火』(1951) 大岡昇平  
『二十四の瞳』(1952) 壺井栄  
『あすなろ物語』(1953) 井上靖  
『草の花』(1954) 福永武彦  
『金閣寺』(1956) 三島由紀夫  
『点と線』(1957) 松本清張  
『死者の奢り・飼育』 大江健三郎(1958)  
:「死者の奢り」(1957)、「他人の足」(1957)、「飼育」(1958)、「人間の羊」(1958)、「不意の唾」(1958)、「戦いの今日」(1958)  
『パニック・裸の王様』(1960) 開高健  
:「パニック」(1957)、「巨人と玩具」(1957)、「裸の王様」(1957)、「流亡記」(1959)  
『砂の女』(1962) 安部公房  
『さぶ』(1963) 山本周五郎  
『砂の上の植物群』(1963) 吉行淳之介  
『楡家の人びと』(1964) 北杜夫  
『黒い雨』(1965) 井伏鱒二  
『忍ぶ川』(1965) 三浦哲朗  
:「忍ぶ川」(1960)、「恥の譜」(1961)、「幻燈畫集」(1961)、「驢馬」(1961)、「初夜」(1961)、「帰郷」(1962)、「團欒」(1963)  
『聖少女』(1965) 倉橋由美子  
『山本五十六』(1965) 阿川弘之  
『国盗り物語』(1966) 司馬遼太郎  
『戦艦武蔵』(1966) 吉村昭  
『沈黙』(1966) 遠藤周作  
『華岡青洲の妻』(1966) 有吉佐和子  
『人民は弱し官吏は強し』(1967) 星新一  
『アメリカひじき・火垂るの墓』(1968) 野坂昭如  
:「火垂るの墓」(1967)、「アメリカひじき」(1967)、「焼土層」(1967)、「死児を育てる」(1968)、「ラ・クンパルシート」(1968)、「プアボーイ」(1968)  
『風に吹かれて』(1968) 五木寛之  
『塩狩峠』(1968) 三浦綾子  
『青春の蹉跎』(1968) 石川達三  
『雁の寺・越前竹人形』(1969) 水上勉  
:「雁の寺」(1961)、「越前竹人形」(1963)  
『孤高の人』(1969) 新田次郎  
『冬の旅』(1969) 立原正秋  
『花埋み』(1970) 渡辺淳一  
『ブンとフン』(1970) 井上ひさし  
『焼跡のイエス・処女懐胎』(1970) 石川淳  
:「焼跡のイエス」(1946)、「かよい小町」(1947)、「処女懐胎」(1947)、「変化雑載」(1948)、「喜寿童女」(1960)  
『二十歳の原点』(1971) 高野悦子

『剣客商売』(1973) 池波正太郎  
『若き数学者のアメリカ』(1977) 藤原正彦  
『太郎物語』(1978) 曾野綾子  
『一瞬の夏』(1981) 沢木耕太郎  
『エディプスの恋人』(1981) 筒井康隆  
『錦繡』(1982) 宮本輝  
『女社長に乾杯!』(1984) 赤川次郎  
『新橋烏森口青春篇』(1985) 椎名誠  
『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』(1985) 村上春樹  
『コンスタンティノーブルの陥落』(1991) 塩野七生

[2]書籍より以下の7冊

『海辺の光景』(1959 新潮文庫) 安岡章太郎  
『羊の歌』(1968 岩波新書) 加藤周一  
『庭の山の木』(1973 冬樹社) 庄野潤三  
『北帰行』(1976 河出書房新社) 外岡秀俊  
『木枯しの庭』(1975 新潮文庫) 曾野綾子  
『ルーマニアの小さな村から』(1990 NHK ブックス) みやこうせい  
『東京ラブストーリー』(1991 小学館) 坂元裕二

◎4章の「～スルト、～シタラ、～スレバ」の追加資料

[3]『CD-ROM版新潮文庫の絶版100冊』(2000)より以下の33冊

(翻訳作品を除く1945年以降の作品)

『永遠なる序章』(1948) 椎名麟三  
『帰郷』(1948) 大佛次郎  
『肉体の門・肉体の悪魔』(1948) 田村泰次郎  
：「肉体の悪魔」(1946)、「街の天使」系譜」(1946)、「男禁制」(1947)、「霧」(1947)、「肉  
体の門」(1947)、「女盗記」(1947)、「鳩の街草話」(1947)  
『宗方姉妹』(1949) 大佛次郎  
『石中先生行状記』(1950) 石坂洋次郎  
『雪婦人絵図』(1950) 舟橋聖一  
『娘と私』(1953) 獅子文六  
『落城・足摺岬』(1953) 田宮虎彦  
：「かるたの記憶」(1946)、「天路遍歴」(1948)、「土佐日記」(1949)、「末期の水」(1949)、  
「落城」(1949)、「足摺岬」(1949)、「絵本」(1950)  
『射程』(1956) 井上靖  
『虫のいろいろ』(1957) 尾崎一雄  
『人間の壁』(1958) 石川達三  
『氾濫』(1958) 伊藤整  
『地唄』(1961) 有吉佐和子  
『停年退職』(1962) 源氏鶏太  
『出発は遂に訪れず』(1964) 島尾敏雄  
『或る聖書』(1965) 小川国夫  
『おどんな日本一』(1966) 海音寺潮五郎  
『死の鳥』(1966) 福永武彦  
『女の警察』(1967) 梶山季之  
『暗い旅』(1969) 倉橋由美子  
『化石の森』(1970) 石原慎太郎  
『てろてろ』(1971) 野坂昭如  
『新しい天体』(1974) 開高健  
『ノンちゃんの冒険』(1975) 柴田翔  
『さきに愛ありて』(1978) 藤原審爾

- 『食卓のない家』(1978) 円地文子  
『七人の敵が居た』(1979) 石川達三  
『下駄の上の卵』(1980) 井上ひさし  
『流離譚』(1981) 安岡章太郎  
『われらが風狂の師』(1981) 青山光二  
『ながい旅』(1982) 大岡昇平  
『湿原』(1985) 加賀乙彦  
『過越しの祭』(1985) 米谷ふみ子